

2016 年度（平成 28 年度）事業報告

（2016（平成 28）年 4 月 1 日から 2017（平成 29）年 3 月 31 日まで）

1 公益目的事業の状況

「公 1 より良い社会の形成を推進するため、資金等の資源を募り管理活用し、また社会的活動を行う団体に対して助成、顕彰等を行うほか、社会貢献活動についての調査、研究、情報発信、相談・助言等を行う事業」にかかわる個別事業の本年度事業結果を以下に報告する。

（1）資金等の資源を募り、管理・活用する事業

広く個人や企業等からの寄附を社会的活動につなげていくもので、当財団の中心的な事業である。受け入れた寄附金を助成金として活用する側面を含めて、本項に記載する。

2016 年度に当財団が受け入れた寄附金は合計 58,962,984 円であった。当財団の呼びかけに賛同しご支援くださった、個人・企業の寄附者の皆様に深く感謝する。

1) オンライン寄附サイト「Give One（ギブワン）」登録団体への寄附の募集

オンライン寄附サイト「Give One（ギブワン）」を運営し、不特定多数の市民、特に初めて寄附を行う人や仕事が忙しく社会貢献活動の機会のない人などを対象に、当財団による厳正な事前審査を経た、信頼できる団体の活動情報を提供し、寄附を募った。助成先団体情報の更新、団体活動レポートの送信などを通じ、寄附者が助成先事業を共に支えていることが実感できる仕組みを提供している。

2016 年度は、新規登録団体の公募・審査を行い、新たに 10 団体を採用した。2016 年度末の登録団体の状況は、前年度より 9 団体増加し 164 団体となったが、登録プロジェクト数は 42 減少して 256 プロジェクトだった。

2016 年度のオンライン寄附金額（クレジットカードとジャパンネット銀行を通じた決済金額）は合計 23,074,233 円で、前年度比 11%減となった。

寄付申込の翌々月末に助成金の振込を行うことから、2016 年 2 月～2017 年 1 月の間に寄付の申込のあった寄附金の 85%にあたる 19,688,344 円を、登録団体のうち 140 団体に対する助成金にあて、15%を同サイトの運営費用とした。助成の団体別内訳実績は下記の通りである。

助成先団体名	受入寄附金額	助成金額
パブリックリソース財団「Give One 寄付パッケージ」窓口(総額)	¥4,891,932	¥4,191,347
(内訳) ・【熊本地震】緊急被災者支援パッケージ	¥3,203,955	¥3,158,455
・【震災特別寄付パッケージ】被災地 3 県の 8 団体応援プロジェクト	¥765,000	¥733,000
・【東日本大震災】生活再建支援寄付パッケージ	¥427,500	¥463,500
・災害弱者(障害者・アレルギー患者・外国人)寄付パッケージ	¥185,000	¥165,000
・【シリア内戦】緊急人道支援寄付パッケージ	¥77,231	¥154,846
・【ネパール大地震】緊急支援パッケージ	¥64,500	¥63,500
・【ハイチ】ハリケーンマシュー緊急被災者支援パッケージ	¥55,746	¥55,746
・ハイチ大地震による被災者緊急支援	¥42,000	¥54,000
・【東日本大震災】復興ふくしま支援寄付パッケージ	¥36,000	¥34,000
・アフガニスタンの人々に健康と教育を【パッケージ】	¥35,000	¥48,949
アムダ (AMDA)	¥1,039,637	¥852,241
フードバンク山梨	¥1,014,115	¥976,365
全国女性シェルターネット	¥964,450	¥812,813
フードバンク関西	¥729,250	¥600,143
ジャパン・プラットフォーム	¥605,000	¥508,300
日本国際民間協力会 (NICCO)	¥565,200	¥502,945
女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	¥472,689	¥372,319
子どもセンター「パオ」	¥441,500	¥411,400
ジェン (JEN)	¥438,760	¥424,371
フローレンス	¥420,000	¥299,243
白神山地を守る会	¥403,324	¥360,769
ケア・インターナショナル ジャパン	¥389,500	¥338,725
シャプラニール	¥371,000	¥287,300
長野サマライズ・センター	¥368,500	¥319,175
日本 IDDM ネットワーク	¥350,150	¥342,741
ブリッジフォースマイル	¥340,000	¥285,600
日本地雷処理を支援する会 (JMAS)	¥305,400	¥267,240
子どもシェルターモモ	¥296,000	¥365,500
国際環境 NGO FoE Japan	¥286,000	¥237,150
SOS子どもの村 JAPAN	¥285,000	¥250,750
キッズドア	¥267,135	¥205,815
ピース ウィンズ・ジャパン	¥258,940	¥196,299
越谷らるご	¥255,678	¥220,343
新宿連絡会	¥246,000	¥205,700
ビッグイシュー基金	¥245,000	¥227,630

CAP センター・JAPAN	¥241,100	¥219,385
パレスチナ子どものキャンペーン	¥241,000	¥193,800
働く女性の全国センター(ACW2)	¥241,000	¥186,150
さなぎ達	¥240,000	¥198,900
難民を助ける会	¥237,459	¥203,540
ブリッジ エーシア ジャパン	¥235,000	¥212,500
トゥギャザー	¥218,000	¥185,300
石西礁湖サンゴ礁基金	¥206,000	¥158,100
チャイルド・リソース・センター	¥198,000	¥158,100
パブリックリソース財団	¥186,000	¥148,750
自立支援センターふるさとの会	¥180,500	¥153,425
緑の地球ネットワーク	¥161,000	¥138,550
ぱれっと	¥158,000	¥127,500
マギーズ東京	¥155,000	¥119,000
日本クリニクラウン協会	¥142,000	¥117,300
地球の友と歩む会(LIFE)	¥137,350	¥120,743
グッドネーバーズ・ジャパン	¥123,000	¥109,650
エイブル・アート・ジャパン	¥114,000	¥76,500
エバーラスティング・ネイチャー	¥111,000	¥99,450
ハンガー・フリー・ワールド	¥107,000	¥90,950
ふよう土2100	¥105,000	¥87,550
ビーンズふくしま	¥98,720	¥91,562
こころ塾	¥91,500	¥108,158
レイブクライシスセンターTSUBOMI	¥91,000	¥33,150
遠野まごころネット	¥86,000	¥84,550
CODE海外災害援助市民センター	¥83,745	¥79,467
芸術家と子どもたち	¥82,000	¥60,350
女性の安全と健康のための支援教育センター	¥80,000	¥51,850
民際センター	¥79,500	¥70,975
チャンス・フォー・チルドレン	¥77,000	¥74,800
環境文化NGO・ナマケモノ倶楽部	¥74,000	¥65,450
しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西	¥73,000	¥54,400
高木仁三郎市民科学基金	¥73,000	¥44,200
アトピZZ地球の子ネットワーク	¥70,000	¥59,500
子どもの虐待防止ネットワーク・あいち(CAPNA)	¥69,000	¥45,900
DPI 日本会議	¥65,000	¥57,800
国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター	¥64,000	¥57,800
日本点字図書館	¥63,500	¥62,050

ジャパンハート	¥63,088	¥32,375
こどもコミュニティケア	¥60,000	¥51,850
きょうとグリーンファンド	¥59,000	¥58,650
アイキャン	¥57,000	¥48,450
アジア・アフリカと共に歩む会	¥57,000	¥47,600
気候ネットワーク	¥57,000	¥53,550
アジア協会アジア友の会	¥54,000	¥0
シャンティ国際ボランティア会	¥53,500	¥59,075
東京シューレ	¥52,000	¥46,750
多言語社会リソースかながわ	¥50,000	¥17,000
彩結び	¥49,200	¥21,420
グリーフケア&ピアサポート 福島れんげの会	¥48,000	¥34,850
JUON(樹恩) NETWORK	¥47,000	¥39,100
バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター	¥47,000	¥39,950
日本クマネットワーク(JBN)	¥47,000	¥39,950
「みのお山麓保全ファンド」	¥46,000	¥28,900
あおもり NPO サポートセンター	¥45,500	¥38,675
子どもの虐待防止センター	¥41,000	¥31,450
21 世紀協会	¥39,000	¥33,150
響愛学園	¥37,000	¥33,150
東京 YMCA“liby(リビー)”	¥37,000	¥36,550
知床自然大学院大学設立財団	¥35,000	¥21,250
箕面こどもの森学園	¥32,461	¥27,536
インフォメーションギャップバスター	¥30,000	¥17,000
カパティラン	¥30,000	¥25,500
ゆるら	¥30,000	¥25,500
e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット	¥29,000	¥26,350
サポートハウスじよむ	¥29,000	¥25,500
タンザニア・ポレポレクラブ	¥28,000	¥22,950
アレルギー支援ネットワーク	¥27,000	¥22,950
児童虐待防止協会	¥27,000	¥23,800
リソースセンターone	¥25,000	¥21,250
ACE	¥24,000	¥20,400
いわき放射能市民測定室「たらちね」	¥24,000	¥21,250
のんびりすみちゃんの家	¥24,000	¥20,400
まちぽっと	¥24,000	¥19,550
JHP・学校をつくる会	¥23,000	¥23,800
病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア	¥23,000	¥20,400

日本グッド・トイ委員会	¥20,000	¥18,700
WE21ジャパン	¥17,000	¥10,200
ロボカップ日本委員会	¥17,000	¥14,450
楠の木学園	¥16,200	¥13,770
チャイルド・ファンド・ジャパン	¥15,000	¥12,750
ムラのミライ	¥13,000	¥11,050
樹木・環境ネットワーク協会	¥13,000	¥11,050
神戸定住外国人支援センター(KFC)	¥13,000	¥11,050
サイエンス・アクセシビリティ・ネット	¥12,450	¥17,638
Hands On Tokyo	¥12,000	¥10,200
尾道空き家再生プロジェクト	¥12,000	¥10,200
霧多布湿原ナショナルトラスト	¥12,000	¥10,200
e-Education	¥11,000	¥9,350
エッジ	¥11,000	¥9,350
おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ	¥10,000	¥8,500
リヴォルヴ学校教育研究所	¥10,000	¥8,500
ワールドキッズコミュニティ	¥10,000	¥8,500
インド福祉村協会	¥8,000	¥6,800
キープ協会	¥6,000	¥5,100
子どもセンターぼると	¥5,500	¥0
日本国際ボランティアセンター(JVC)	¥5,000	¥4,250
共存の森ネットワーク	¥1,800	¥1,530
(公益財団法人公害地域再生センター)	¥1,000	¥850
日本ウミガメ協議会	¥1,000	¥9,350
野生生物保全論研究会	¥1,000	¥850
緑と水の連絡会議	¥1,000	¥850
HIVと人権・情報センター	¥0	¥4,250
アイサーチ・ジャパン	¥0	¥2,550
メコン・ウォッチ	¥0	¥850
国際医療技術財団	¥0	¥8,500
合 計	¥23,074,233	¥19,688,344

クレジットカードとジャパンネット銀行以外の決済手段による、Give One 登録団体に対する寄附は、17 件、合計 4,410,000 円だった。

寄付者名	寄付金額
azbil みつばち倶楽部様	¥1,700,000
株式会社クオカード様 (12 件)	¥571,040

アイリックコーポレーション 様	¥55,500
個人3名	¥2,083,460
合計	¥4,410,000

2016年度に受け取ったご寄付のうち、170万円は助成を2017年度に繰り越すこととし、2016年度は以下の助成先に合計2,016,353円を助成した。

助成先団体名	助成額
アムダ (AMDA)	¥419,645
日本クリニックラウン協会	¥116,331
e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット	¥87,890
CAP センター・JAPAN	¥85,000
エッジ	¥85,000
キッズドア	¥85,000
チャイルド・リソース・センター	¥85,000
トゥギャザー	¥85,000
バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター	¥85,000
フードバンク山梨	¥85,000
ふよう土2100	¥85,000
ゆるら	¥85,000
越谷らるご	¥85,000
遠野まごころネット	¥85,000
子どもシェルターモモ	¥85,000
児童虐待防止協会	¥85,000
女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	¥85,000
長野サマライズ・センター	¥85,000
ジェン (JEN)	¥22,372
ピース ウィンズ・ジャパン	¥20,247
石西礁湖サンゴ礁基金	¥16,524
エバーラスティング・ネイチャー	¥13,702
フローレンス	¥7,905
働く女性の全国センター (ACW2)	¥6,970
芸術家と子どもたち	¥5,542
白神山地を守る会	¥3,995
アレルギー支援ネットワーク	¥3,655
こころ塾	¥3,655
きょうとグリーンファンド	¥3,570
ジャパン・プラットフォーム	¥2,550
国際環境 NGO FoE Japan	¥2,550

霧多布湿原ナショナルトラスト	¥2,550
緑と水の連絡会議	¥1,700
合計	¥2,016,353

2) 財団運営への寄附

当財団の賛助会費（運営費 100%）は、個人 47 件、540,000 円、法人 2 件、200,000 円の合計 740,000 円だった。

3) 社員参加型／顧客参加型寄附推進システムの提供・運営

<寄付付き年賀状>

寄附金付き年賀状の企画は株式会社プリプレス・センターと協働して、2014 年版年賀状（当財団 2013 年度）から実施している。年賀状に支援先を明記するために、年賀状の販売開始に先立ち、昨年度、助成先に関する選考委員会を開催し本年賀状のデザインで採用される障がい者アートの活動（一般財団法人たんぼぼの家 エイブルアート・カンパニー）を助成先として決定した。2016 年度は、2016 年版年賀状販売による寄附金（33,555 円）をもとに、28,522 円の助成を実施した。

受入寄附金額	33,555 円
助成額	28,522 円
公募	公募実施せず（昨年度より継続助成）
審査会	2014 年 7 月 11 日～17 日（書面による持回り開催）
選考委員	秋葉武（立命館大学産業社会学部 教授） 伊藤隆（世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事） 槇ひさ恵（特定非営利活動法人ニンジン 常務理事）
審査結果	一般財団法人たんぼぼの家 エイブルアート・カンパニー
助成期間	2016 年 4 月～2017 年 3 月

<魚沼の未来基金>

本基金は、塩沢信用組合と協働して、魚沼地域の未来を切り拓く人材や団体を支援し、地域の誰もがいきいきと暮らせるふるさと魚沼を、将来にわたって継承・発展させることを目的として設立した。

本基金は、信用組合が組合員に呼びかけて寄付を募り共に地域に貢献するといった、金融機関が「社会貢献のプラットフォーム」を提供する日本初の取り組みとなる。2016 年度は 161 件、5,201,757 円の寄付を受け入れ、2017 年度より実施する返済不要の高校生向け奨学金制度「第一期はばたき奨学金」実施のため、魚沼地域のひとり親家庭の子女を対象に、22 名の奨学生の選定を行った。奨学金は一人当たり 96,000 円うち入学準備金 36,000

円月齡奨学金 60,000 円 (5,000 円×12 か月) である。2016 年度は入学準備金 36,000 円のみ助成を行った。

受入寄附金額	5,201,757 円
総決定金額	2,112,000 円 (96,000 円×22 名)
助成額	792,000 円 (入学準備金のみ)
公募	2016 年 11 月 1 日～12 月 30 日
応募	33 件
審査会	2016 年 1 月 31 日
選考委員	寺尾仁 (新潟大学工学部建設学科 准教授) 林茂男 (南魚沼市長) 佐藤雅一 (魚沼市長) 小野澤一成 (塩沢信用組合 理事長)
審査結果	22 人を奨学生として選定
助成期間	2017 年 3 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

< ささえあい QUO カード (寄付つきプリペイドカード) >

ささえあい QUO カード (寄付つきプリペイドカード) の企画は株式会社クオカードと協働して、2015 年から販売を実施している。寄付先団体は、昨年度から引き続き「特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金」「認定特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー」「特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会」「特定非営利活動法人芸術家と子どもたち」「AED・健康スポーツ基金」「アート&ヘルス基金」「認定特定非営利活動法人 AMDA (アムダ)」である。寄付金に関しては他プロジェクトとともに助成を行った。

受入寄附金額と枚数	特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金：15,760 円、394 枚 認定特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー：16,280 円、407 枚 特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会：22,520 円、563 枚 特定非営利活動法人芸術家と子どもたち：6,640 円、166 枚 AED・健康スポーツ基金：23,240 円、582 枚 アート&ヘルス基金：9,240 円、231 枚 認定特定非営利活動法人 AMDA (アムダ)：509,840 円、12,746 枚 総額：603,520 円、総販売枚数：15,089 枚
-----------	---

4) 寄附基金の運営による継続的な寄附の推進

今期は下記の基金を運営した。

< 東日本大震災広域避難者支援基金 >

「東日本大震災広域避難者支援基金」は、福島からの広域避難者の生活の質の向上を目

指すものである。認定特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会の管理する寄附金つき飲料自動販売機の売り上げの一部として 491,715 円の寄附を受け入れ、総額の 85%にあたる 417,962 円を助成金として支出した。自動販売機に支援先が明記されているため、昨年度選考委員会で決定された支援先に対し、継続して助成することを原則としている。継続的支援先については、昨年度活動報告と本年度事業計画を選考委員会に提出し、継続の可否について審査をおこなった。なお、2017 年度は「東日本大震災復興支援基金」と統合し、「東北 3.11 基金」として新設され、本年度中に 289,392 円の寄附金を受け入れている。

受入寄附金額	491,715 円
助成額	417,962 円 (3 団体合計)
公募	公募実施せず (昨年度より継続助成)
審査会	2015 年 4 月 7 日
選考委員	秋葉武 (立命館大学産業社会学部 教授) 伊藤隆 (世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事) 槇ひさ恵 (特定非営利活動法人ニンジン 常務理事)
審査結果	以下 3 団体を決定。 特定非営利活動法人こどもプロジェクト (継続) 福島県自主避難・母子避難新潟市自治連絡協議会 (継続) 特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク (新規)
助成期間	2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

<東日本大震災復興支援基金>

同基金には、認定特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会の管理する寄附金つき飲料自動販売機の売り上げの一部として 1,004,378 円の寄附を受け入れ、総額の 85%にあたる 853,725 円を助成金として支出した。

自動販売機に支援先が明記されているため、昨年度選考委員会で決定された支援先に対し、継続して助成することを原則としている。継続的支援先については、昨年度活動報告と本年度事業計画を選考委員会に提出し、継続の可否について審査をおこなった。

受入寄附金額	1,004,378 円
助成額	853,725 円 (3 団体合計)
公募	公募実施せず (昨年度より継続助成)
審査会	2015 年 4 月 7 日
選考委員	秋葉武 (立命館大学産業社会学部 教授) 伊藤隆 (世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事) 槇ひさ恵 (特定非営利活動法人ニンジン 常務理事)
審査結果	以下 3 団体を決定。

	財団法人たんぼぼの家 東日本大震災復興支援事業（継続） 特定非営利活動法人ビーンズふくしま（継続） 特定非営利活動法人遠野まごころネット（継続）
助成期間	2016年4月1日～2017年3月31日

<未来につなぐふるさと基金>

キャノンマーケティングジャパン株式会社で使用済みカートリッジの回収本数と PPC 用紙（コピー紙）の販売数に応じ、同社が実施する寄附を初めとし、古本の回収等による一般からの寄附も受け付けている。同基金への 2016 年度寄附受け入れ件数は 6 件、総額は 13,561,001 円だった。

2015 年度に選定した 5 団体（助成期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 12 月 31 日）に対する 2 年度分の活動資金として合計 4,999,360 円を助成した。

助成先である 5 団体において、2016 年度は、生物多様性の保全を促す 34 の市民参加型プログラムが実施され、731 名の市民が参加した。また、キャノンマーケティングジャパン株式会社が、助成先団体において実施する写真教室（機材と講師の無料提供。合計 5 回の実施）に協力した。また、公益財団法人日本自然保護協会と協力して、助成先団体の組織運営力の向上を目的とした組織診断や広報ワークショップ等の、運営面での支援を行った。また、キャノンマーケティングジャパン株式会社が生物多様性の啓発を目的として開設した「未来につなぐふるさとプロジェクト」のサイトに掲載するためのコンテンツの収集に協力した。

2017 年 2 月 17 日には、特定非営利活動法人グラウンドワーク三島の協力を得て、静岡県三島で報告会を開催し、助成先の 5 団体が参加して情報交換や意見交換を行った。

助成額	2,499,360 円（2016 年度） 2,500,000 円（2017 年度）
審査会	2015 年度に実施。2016 年 12 月 16 日に 2017 年度の継続審査を行った
審査委員	古沢広祐（国学院大学大学院経済学研究科教授） 古瀬繁範（NPO 法人地球と未来の環境基金理事長・事務局長） 福田真由子（公益財団法人 日本自然保護協会 自然保護部 市民活動推進室） 鈴木郁（キャノンマーケティングジャパン株式会社 執行役員 CSR 本部長）
審査結果	以下の 5 団体の継続助成を決定 特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島 特定非営利活動法人 棚田 LOVER's 真庭遺産研究会 特定非営利活動法人 西中国山地自然史研究会 特定非営利活動法人 おおいた環境保全フォーラム
助成期間	2016 年 4 月 1 日～2017 年 12 月 31 日

さらに、新たに5団体（助成期間：2017年4月1日～2018年12月31日）を選定し、1年度目の活動資金として2,500,000円を助成した。

助成額	2,500,000円
公募	2016年9月8日～2016年11月2日
審査会	2016年12月6日
選考委員	古沢広祐（国学院大学大学院経済学研究科教授） 古瀬繁範（NPO法人地球と未来の環境基金理事長・事務局長） 福田真由子（公益財団法人 日本自然保護協会 自然保護部 市民活動推進室） 渡辺徹（キャノンマーケティングジャパン株式会社 CSR本部長）
審査結果	以下の5団体を決定 特定非営利活動法人 もりねっと北海道 特定非営利活動法人 田んぼ 特定非営利活動法人 アサザ基金 特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所 特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所
助成期間	2017年4月1日～2018年12月31日

<教育基金>

教育の課題解決に取り組むNPOや社会的企業を応援するための教育基金は、全ての子ども・青少年が持てる力を十全に発揮し、人生を切り拓く力を身に着けることをめざすものである。2014年度に選考委員会で決定した助成先NPO法人 Teach For Japan のネクストティーチャープログラム（次世代のリーダーとなる資質をもった人材を選抜・育成し、正規の教員として学校現場へおくりだすプログラム）に対し、継続的に助成をしている。

寄附募集の結果、今年度は13件42,083円の寄附を受け入れ、昨年度からの繰越し分と合わせて38,199円を助成した。

受入寄附金額	42,083円（うち、前年繰越金：6,160円）
助成額	38,199円
公募	公募実施せず（2014年度より継続助成）
審査結果	特定非営利活動法人 Teach For Japan
助成期間	2016年4月～2017年3月

<アート&ヘルス基金>

「アート&ヘルス基金」は、アートの力で病院や福祉施設、学校、コミュニティケアの

場を豊かな空間とすることを目指すもので、人間が生きることを助けるアート活動を支える寄附の仕組みである。2016年度は14件、39,230円の寄附を受け入れた。助成は実施しなかった。

< A E D ・地域あんしん基金 >

キャノンマーケティングジャパン株式会社と共同で「A E D ・地域あんしん基金」を設立した。本基金はご寄附をもとに、多くの市民が利用する公共施設や福祉施設にA E Dを寄贈し、災害時などに避難所となることが想定される施設などに設置することを目的としている。運営管理はパブリックリソース財団が行い、キャノンマーケティングジャパン株式会社は募金活動の協力およびA E Dの設置、講習インストラクターの派遣を行った。本年度は、3件合計1,339,088円の寄附を受け入れた。

審査委員会で応募11団体を審査し、2016年度は3団体への寄贈を決定した。また、2015年度より持ち越した認定NPO法人フロンティア南相馬とのびのび学童保育所への寄贈を行った。

受入寄附金額	1,339,088 円
寄贈台数	3 台 (2016 年度) ※前年度以前受け入れ寄付分も含む
公募	財団ホームページ上で随時受け付け
応募件数	3 団体
審査会	2016 年 4 月 (メールによる持ち回り審査)
選考委員	浅野幸子 (早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員) 市瀬敬子 (NPO 法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会 理事長) 西尾元雄 (キャノンマーケティングジャパン株式会社総務・CSR 本部主席) 山崎富一 (特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長)
A E D 寄贈先 選定結果	3 団体を決定。 社会福祉法人砂町友愛園 砂町友愛園養護部 社会福祉法人聖友ホーム 児童養護施設聖友学園 社会福祉法人東京愛育苑 東京愛育苑向島学園

< A E D ・健康スポーツ基金 >

公益財団法人日本健康スポーツ連盟と共同で、「A E D ・健康スポーツ基金」を設立した。本基金はご寄附をもとに、地域スポーツに関わる多くの人がA E Dを使えるよう、地域のスポーツチームにA E Dを寄贈することを目的としている。運営管理はパブリックリソース財団が行い、日本健康スポーツ連盟は、募金活動、A E D普及についての啓蒙活動、講習インストラクターの派遣と講習の実施を行う。本年度は、16件合計1,639,413円の寄附を受け入れた。

受入寄附金額	1,639,413 円
寄贈台数	5 台 ※前年度以前受け入れ寄付分も含む
公募	財団ホームページ上で随時受け付け
応募件数	7 団体
審査会	2016 年 7 月、9 月（メールによる持ち回り審査）
選考委員	浅野幸子（早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員） 市瀬敬子（NPO 法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会 理事長） 西尾元雄（キャノンマーケティングジャパン株式会社総務・CSR 本部主席） 山崎富一（特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長） 玉利齊 公益財団法人日本健康スポーツ連盟理事長
AED 寄贈先 選定結果	5 団体を決定。 熊本サンデーズ R. F. C. ジュニア 山鹿ラグビースクール「レッドフォーンズ」 岩手県ラグビーフットボール協会 宮城県ラグビーフットボール協会 福島県ラグビーフットボール協会

<ふくしま未来基金>

「ふくしま未来基金」は福島県内の篤志家及び地域貢献を目指す企業からの寄附で創設された地域基金である。基金創設時に受け入れた大口寄付をもとに運営を行っている。2016 年度は、一般財団法人ふくしま未来研究会や一般社団法人ふくしま連携復興センターなど、複数の福島市内の中間支援組織や専門家と連携しながら、「未来づくり助成（1 年 300 万円＋コンサルタント支援 50 万円相当）」「まちづくり草の根助成（単年度支援 100 万円）」の二つの助成プログラムを実施した。総額 26,861,300 円を福島県内 16 団体（内 4 団体は 2015 年度からの継続）に助成した。なお、「未来づくり助成」は 2015 年度の採択団体は 3 年継続支援の 2 年目、2016 年度採択団体は 2 年継続支援の 1 年目にあたり、継続には 1 年毎の審査を行う。

「未来づくり助成」の助成団体に対して、組織基盤強化のためのコンサルタント派遣による経営支援を実施した。

また、全助成団体の理事およびスタッフを対象に、NPO マネジメント講座（通信講座に加えて、2016 年 8 月 5 日と 8 月 24 日にスクーリングを開催）を実施した。

受入寄附金額	2015 年度に受け入れた 94,500,000 円に加えて新たに 130,000 円
助成額	27,861,300 円（総額）※前年度以前受け入れ寄付分も含む
公募	2016 年 3 月 1 日～3 月 28 日
応募件数	46 団体
審査会	一次審査会：2016 年 4 月 27 日 二次審査会：2016 年 5 月 20 日
選考委員	鈴木 浩（福島大学名誉教授）

	黒田 かをり（般財団法人CSO ネットワーク 常務理事） 鷹野 秀征（弊財団理事 復興庁上席政策調査官） 中鉢 博之（NPO 法人ビーンズふくしま理事） 長澤 裕子（株式会社吾妻高原ウインドファーム代表取締役）
選定結果	<未来づくり助成> 特定非営利活動法人超学際的研究機構 特定非営利活動法人 NPO ほうらい 特定非営利活動法人 Lotus 特定非営利活動法人よつくらぶ 特定非営利活動法人がんばろう福島、農業者等の会 グッデイマーケット実行委員会 特定非営利活動法人コースター 特定非営利活動法人福島県有機農業ネットワーク <まちづくり草の根助成> 特定非営利活動法人郡山ペップ子育てネットワーク 福島移住女性支援ネットワーク（EIWAN） フクシマ環境未来基地 特定非営利活動法人ふくしま30年プロジェクト 特定非営利活動法人青空保育たけの子 いいたてまでの会 特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター 福島大学災害ボランティアセンター
助成期間	2016年6月1日～2017年5月31日

○NPO マネジメント講座の実施状況

通信講座の実施期間	2016年6月17日～2016年8月31日
通信講座講師	岸本幸子、鶴尾雅隆、春野真徳、藤本毅郎、坂本文武、雨森孝悦、田口由紀絵
スクーリング開催日	2016年8月5日：ミッション・ベイスト・マネジメント 2016年8月24日：ファンドレイジング
スクーリング会場	コラッセ福島
スクーリング講師	岸本幸子、ファンドレイジング・ラボ 代表 徳永洋子氏
参加者数	51名

2016年度は、未来を志向した夢のあるプロジェクトを地域に立脚しながら構想し実現する有為な「人材」を育てる「ふくしま志高塾」と、福島県内におけるNPOや社会起業家の活動を支援する人材を育てる「コンサルタント養成講座」、福島県内のNPOの組織基盤強化を促進するための「キャパシティービルディングフォーラム」を実施した。

○ふくしま志高塾の実施状況

実施期間	2016年7月～2017年2月
開催日	講義研修編：7月27日、28日 実地研修編：8月～9月の間の3日間 企画研修編：10月21日、22日 個別メンタリング：10月～2月 プレゼンテーション大会：2月8日
講師	佐藤勝三、田口佳史、田中勇一、佐野章二
メンター	鷹野秀征、臼井清、山崎富一
参加者数	8名

○コンサルタント養成講座の実施状況

実施期間	2016年9月1日～2017年2月24日
開催日	2016年9月1日、9月14日、9月28日、10月11日、10月26日、11月9日、12月22日、2017年1月25日、2月24日
場所	コラッセふくしま
講師	田口由紀絵、One Vison 中野未知子氏、株式会社 PubliCo 代表取締役 CEO 長浜洋二氏、ふくしま連携復興センター山崎 庸貴氏
受講者数	13名
組織診断実習	対象団体：3団体

○キャパシティービルディングフォーラムの実施状況

開催日時	2016年11月1日13時～16時30分
場所	コラッセふくしま
パネリスト	NPO 法人みんなのひろば 理事長 齋藤大介氏 NPO 法人しずおか環境教育研究会 事務局長 山本由加氏 株式会社 PubliCo 代表取締役 CEO 長浜洋二氏 公益財団法人パブリックリソース財団 評議員 山崎富一
参加者数	20名

<あい基金>

すべての女性が自らの力で人生を選択できる社会を目指し、経済的自立など女性にまつわる課題解決に取り組む事業を支援する、女性のための基金「あい基金」を創設した。

2016年度は第一回目の助成事業の他、「あいサロン」を2回、「遺贈・相続セミナー」を1回開催した。また、あい基金創設1周年イベントを実施し、寄付者が実際に寄付金がどのような団体に助成されるのかを実感できるよう、助成事業の公開プレゼンテーションを実施した。

2016年度は83件合計2,858,348円の寄附を受け入れ、審査会にて2団体を選定し、総額

1,000,000 円を助成した。なお、本助成プログラムは 1 団体あたり 1 年につき 50 万円の支援を行い、原則 2 年継続、総額 100 万円の助成である。なお、継続支援の際には審査を行う。

また、次点 2 団体には一般社団法人 Women Help Women より「Women Help Women 賞」として工業用ミシンが寄贈された。

受入寄附金額	2,858,348 円
助成額	1,000,000 円 (総額)
公募	2016 年 9 月 20 日～10 月 31 日
応募	8 件
審査会	一次審査会：2016 年 11 月 28 日 二次審査会：2016 年 12 月 8 日
選考委員	黒田かをり (一般財団法人 CSO ネットワーク 常務理事・事務局長) 酒井香世子 (損保ジャパン日本興亜株式会社 人事部 特命部長) 桜井陽子 (特定非営利活動法人全国女性会館協議会 顧問)
審査結果	以下 2 団体を決定。 株式会社 WATALIS 特定非営利活動法人ウィメンズアイ
助成期間	2017 年 1 月 1 日～2017 年 12 月 31 日

<純 子ども基金>

本基金は、経済的に困難な状況で育つ子どもの学び、発育、食、住まい等の確保に取り組む団体を対象とするオリジナル基金である。当該団体の組織基盤強化に取り組むことを通じ、子どもたちが健やかに、心豊かに成長できる環境づくりを進めることを目的として設立。パブリックリソース財団がこれまで行ってきた組織診断、コンサルティング、社会的インパクト評価などのマネジメント支援の経験にもとづき、資金支援とメンタリング・サポートの両面から、継続的に団体を応援していく。2016 年度は 1 件、3,000,000 円の寄付を受け入れ、審査会にて 2 団体を選定した。当助成金プログラムは、1 団体につき初年度 100 万円、2 年度目 150 万円、3 年度目 150 万円、総額 400 万円を支給する。なお、継続支援には 1 年毎の審査が行われる。1 年目の 2 団体への助成金総額 2,000,000 円の支給は 2017 年度へ持ち越した。

受入寄附金額	3,000,000 円
助成額	2,000,000 円 (総額) ※支給は 2017 年度に持ち越し
公募	2017 年 2 月 1 日～2 月 28 日
応募	5 件
審査会	2017 年 3 月 21 日
選考委員	雨森孝悦 (日本福祉大学 教授) 大森智恵子 (特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター 理事) 中鉢博之 (特定非営利活動法人ビーンズふくしま 理事)

審査結果	以下 2 団体を決定。 特定非営利活動法人寺子屋方丈舎 特定非営利活動法人ウィーズ
助成期間	2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

(2) 社会貢献活動についての情報提供、相談事業

社会貢献活動を促進したいと考える企業を対象に、以下の情報提供や成果評価を行った。

<損保ジャパン日本興亜 ちきゅう倶楽部「Heart&Arts プログラム」>

損害保険ジャパン日本興亜株式会社と業務委託契約を結び、損害保険ジャパン日本興亜株式会社の全役職員がメンバーであるボランティア組織、「損保ジャパン日本興亜 ちきゅう倶楽部」の助成プログラム「Heart&Arts プログラム」の運営支援を行った。同プログラムは、美術活動、音楽活動、舞台芸術活動などのアート（芸術）の力を活用して、社会課題を解決する団体のうち、障がい者がアートの力で自分を自由に表現する活動を実践する団体の組織基盤強化を支援する助成プログラムである。当財団では、同プログラムの趣旨および応募要項の作成協力、助成団体の公募、助成団体の一次審査を行った。一次審査の際には、専門家（梅田亜由美氏、齋藤啓子氏、佐野晶子氏）のアドバイスを受けた。本プログラムにおいては、助成先の最終決定は、一次審査の結果をもとに、損保ジャパン日本興亜 ちきゅう倶楽部が行うこととなっており、最終的に 12 団体への助成を決定した。

公募期間	2016 年 12 月 6 日～2017 年 1 月 11 日
応募件数	35 団体
一次審査の方法	梅田亜由美氏（女子美術大学 非常勤講師、「みんなの美術館プロジェクト」実行委員）、齋藤啓子氏（武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科教授）、佐野晶子氏（アーツカウンシル東京／公益財団法人東京都歴史文化財団 企画室企画助成課 シニア・プログラムオフィサー）を専門家として招き、推薦団体を決定した
一次審査結果	11 団体を推薦

<azbil みつばち倶楽部>

Azbil みつばち倶楽部は、会員（アズビル株式会社の役職員の有志）が毎月 100 円を拠出して集めた寄附をもとに、会員が推薦する市民活動団体に対して資金支援をすることを目的としている。本年度は、アズビル株式会社と業務委託契約を結び、支援先の募集、受付、選定、連絡、報告書の取り寄せ、本プログラムへのアドバイス等を行った。2016 年度は 33 団体に対し、4,930,000 円の資金支援を行った。

<CSR 推進のための企業との対話>

企業の CSR レポートの第三者意見の執筆、一般社団法人CSRレビューフォーラムの行う企業のCSRのレビュー（企業とNGOとの対話）への参画などを通じ、市民セクターの立場からCSRの推進に取り組んだ。

<東日本大震災被災地視察のコーディネート>

クラブツーリズム株式会社と業務委託契約を結び、同社の社会貢献活動の実施支援を行った。本年度は同社の社員や「エコスタッフ」を対象に、東日本大震災被災地視察のコーディネートを行った。同社では本年度現地訪問、講演会、ボランティアなどを実施した。

(3) 寄附を推進するための普及啓発活動等に関する事業

1) 個人や企業等からの寄附を喚起するための事業

遺言や相続に関係する寄附やオリジナル基金の創設について説明する各種パンフレットの作成に取り組んだ。遺贈寄付推進のために全国レガシーギフト協会の設立にかかわった。

2) 寄附を推進する仕組みやプロジェクトの企画及び実施に係る事業

本年度は実施しなかった。

(4) 社会的活動を行う団体等に対する助成事業

(5) 社会的活動を行う団体等に対する表彰・顕彰事業

上記(4)及び(5)は、(1)の事業において受け入れた寄附を活用する事業。いずれの事業においても、広く対象を募集し、社会的活動や各種の公益活動分野に関して知見のある有識者で構成された委員会による公平かつ厳正な審査を経て選定を行う。(4)の助成事業については、(1)の事業で記載した。(5)については今期は実施しなかった。

(6) 社会的活動を行う団体等に対する研修事業

NPO法人の経営力・信頼性の向上を支援することを目的に、以下の研修事業を実施した。

1) NPOのマネジメントコンサルティングの実施

<特定非営利活動法人 しずおか環境教育研究会>

しずおか環境教育研究会が Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団に組織診断およびマネジメントコンサルティングを業務委託した。弊財団では、2015年度に行った組織診断結果をもとに、マーケティング力強化のためのコンサルティング支援を、株式会社 PubliCo の協力を得て行った。

実施期間：2016年1月1日～2016年12月31日

コンサルティングの内容：マーケティング力強化のためのコンサルティング

<社会福祉法人 日本国際社会事業団>

日本国際社会事業団が Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団に組織診断およびマネジメントコンサルティングを業務委託した。弊財団では、診断シートを活用した組織診断と、ファンドレイジングのツール作成支援を行った。

実施期間：2016年1月1日～2016年12月31日

コンサルティングの内容：組織診断とファンドレイジング支援

<特定非営利活動法人 えがおさんさん>

組織の規定等の整備、会議運営の効率化、収益の改善に取り組むことを目的に、組織基盤強化のためのマネジメントコンサルティングを受託した。

実施期間：2016年2月3日～2016年8月31日

コンサルティングの内容：規定類の作成支援、収益改善のためのアドバイス、理事会運営アドバイス、資金繰り、ファンドレイジング、組織図の作成等

<特定非営利活動法人 びわこ豊穰の郷>

びわこ豊穰の郷が Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団に組織診断を業務委託した。弊財団では、診断シートを活用した内部環境分析、SWOT ワークショップ、意見交換会等を行い、組織診断結果を報告書にまとめて同団体に提出した。

実施期間：2016年1月9日～2016年12月31日

コンサルティングの内容：組織診断

<認定 NPO 法人みやぎ発達障害サポートネット>

宮城県仙台市に拠点を置く認定特定非営利活動法人みやぎ発達障害サポートネットの中期計画フォローアップの一環として、人材育成の研修を行った。

実施期間：2016年4月～2017年3月

2) NPO マネジメントに関する講座の運営および講師派遣

<講師派遣>

外部セミナー等への講師派遣を13回行った。

3) ソーシャルビジネスに関する講座企画、運営、起業支援

3つの社会的な法人（特定非営利活動法人自治創造コンソーシアム、特定非営利活動法人ニンジン、一般社団法人新興事業創出機構）の事務局運営支援を行った。

(7) 調査研究、情報発信、政策提言に関する事業

<Panasonic NPO サポート ファンド 2014 年助成事業の成果評価>

パナソニック株式会社が企業市民活動の一環として実施する「Panasonic NPO サポート ファンド」に関し、成果評価を行った。

評価対象は、2014 年度組織基盤強化事業の助成対象団体（対象団体：11 団体）である。本事業による資金提供及び非資金的取組みが、助成の受け手における組織基盤の強化、活動の充実による社会課題の解決の促進に与えた影響を検証した。また、組織基盤強化の手法として、組織診断を実施したことによる効果、および第三者によるコンサルティングの効果をはかった。

助成先団体の応募用紙・報告書類の分析、助成先団体へのアンケート調査を行った。弊財団では、同社に対し報告書を提出した。

<Panasonic NPO サポート ファンドの社会的インパクト評価>

2015 年度に行った、同ファンドの組織基盤強化助成により生まれた社会的インパクトの評価結果の一部を英訳し、イギリスの Social Value に提出した。その際に得たフィードバックに沿って、2016 年度は、アレルギー支援ネットワークの再評価を開始した。

組織能力の変化を定量的に把握するための評価手法として、弊財団が開発した「NPO マネジメント診断シート」を指標群として活用した。助成前と助成後の組織の状態をそれぞれ自己診断でアセスメントして比較することで、助成が組織基盤強化にどのような影響を与えたかを数値で把握した。

助成事業の社会的インパクト、および助成の投資対効果を測るための方法としては、SROI の手法を活用し、助成の投資対効果について定量的な評価を試みた。

評価対象団体：特定非営利活動法人 アレルギー支援ネットワーク

実施期間：2016 年 12 月 19 日～本件業務の終了時まで

<金融機関職員による伴走支援事業への協力>

埼玉県県民生活部共助社会づくり課が行う、金融機関職員による NPO の伴走支援推進事業において、講師およびファシリテーターの派遣を行った。

実施期間：2016 年 9 月 21 日～2017 年 2 月 22 日

<十和田市現代美術館 10 周年記念プロジェクト調査>

十和田市現代美術館を運営するエヌ・アンド・エー株式会社からの委託により、十和田市現代美術館 10 周年記念プロジェクト調査業務（市民意向把握分析）を実施した。弊財団では、調査設計、過去のアンケート調査結果の整理・分析、アンケート調査の実施、主たるステークホルダーに対するヒアリングによる情報収集を行い、調査報告書を提出した。

実施期間：2016 年 11 月 8 日～2017 年 2 月 28 日

<寄付を媒介とした多世代共創モデルの提案>

国立研究開発法人科学技術振興機構からの委託研究として、「寄付を媒介とした多世代共創モデルの提案」研究開発プロジェクトを開始した。2016年度は、第1回研究会を開催し、NPOの寄付適格性に関する評価手法の開発と先駆的団体の評価を開始した。また、オンラインを活用した寄付文化の拡大の実践のための、寄付者参加型WEBサイトの構築の準備を行った。

契約期間：2016年10月1日から2017年9月30日

以上